

檀信徒各位

## 春季彼岸法要のご案内

聖名 長期予報では暖冬といわれながら、今年の冬は厳しい寒さとなりました。ようやく春らしい陽気となってまいりました。

さて、例年3月の「春季彼岸法要」を迎えることになりました。

ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。 合 掌

平成24年3月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

### 記

※期 日 3月20日(火) 春分の日

※時 間 午後1時より音楽法要、ご回向

午後2時より法話と歌唱指導(音楽法要の曲等)

※布教師 住職 堤 俊翁



※ご回向料

普通回向 1霊 1,000円以上

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

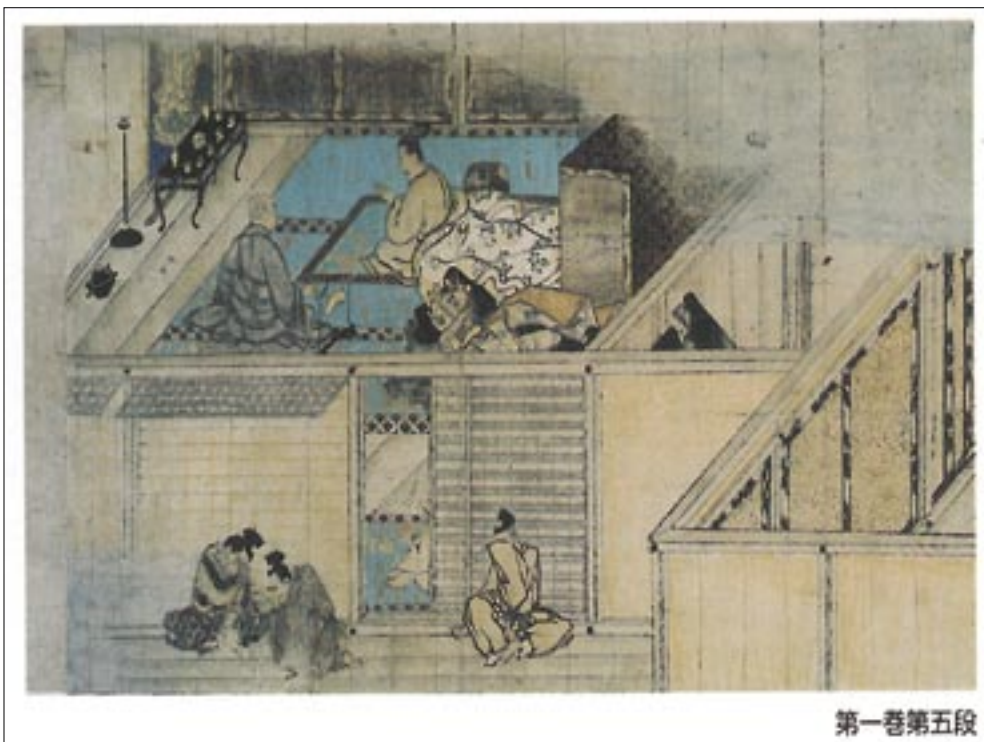
※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※お袈裟をお持ちの方は着用の上、法要にご参加下さい。

# 法然上人絵伝

## 第一巻第五段

「敵人をうらむ事なかれ」父の遺言に勢至丸出家す



第一巻第五段

突然の夜襲をかけられ、深い疵を負って死に臨んだ漆間時国は、幼い勢至丸を枕元に呼んで遺言した。「お前は、会稽の恥をほらそうと思ひ、敵をうらんではいけない。これは前世の宿業である。もし恨みを遺せば、いつまでも続いてゆく。どうか早く俗世を逃れ、私の菩提を弔ってもらいたい」といい、西に向かつて合掌し、念佛をとえながら息絶えた。

絵巻には、時国の臨終のときの様子が描かれている。漆間家の仏間であろうか。西壁の一角に立像の阿弥陀仏の掛け軸が掛かっている。

る。白装束の時国は起き上がり、敷物の上に座り、合掌している。心なしか顔もやつれ、みるからに重体らしい。

時国のそばには、薄墨の僧衣をまとった僧侶が、磬を打ちながら念佛を続けている。布団の下手には、袖で顔をおさえた桂姿の女性と、振分髪の子供が見える。時国の臨終を悲しむ時国夫人と勢至丸であろう。

この他にも部屋の中には数人いるようであるが、仏間の外、板戸のわきには直垂姿の武士が三人、立て膝やあぐらをかき、がつくりと肩を落とし、袖を目にあてて泣いている。みるからに寂しい絵で、悲しみが伝わってくる。

## 釈尊の生涯

### 異教徒との対話

ウルヴィルヴァーに着かれた釈尊は、ヴェーダの規定によってナイランジャー河に身を清めつつ祭火供養を行っているカーシャパにめぐり合った。カーシャパには三人の兄弟があり、それぞれ五百、三百、二百の弟子をもっていた。

五百の弟子をひきいる統領として自負心が強く、傲慢なウルヴィルヴァー・カーシャパも、高潔無比な釈尊の人格の威力に圧倒され、つい出家を申し出るにいたった。それを知って五百の弟子、さらに二人の弟とその弟子たちも、釈尊の弟子となることを誓った。

こうして一時に千人を弟子とした釈尊は、彼らに向かつて「汝たちよ、すべてのものはみな燃えている。眼は燃え、物は燃え、心は燃えている。それはむさぼり(貪欲)、いかり(瞋恚)、おろか(愚痴)によって燃えている。

それらの煩惱の火を消して(寂靜)にいたることを願うべきである」とさとされた。

為  
先祖代々供養

志納者名  
○○○○

銅板志納記入例



9尺の聖観世音菩薩様

銅板・真鍮板 志納の流れ

志納金と銅板・真鍮板

銅板 ¥5000-

真鍮板 ¥3000-



銅板・真鍮板に直接記入

※ 願文をご自由に書いていただいて結構です。



受付にお渡しください。



銅板・真鍮板を鋳溶かして、  
観音様の御本体などに使用します。

※別途一覧表を作成し、  
写経と共に完成した観音様の台座に奉納いたします。

※銅板・真鍮板の志納は、用意分が無くなり  
次第締め切らせていただきます。

※ご希望の方は志納金もお受けいたします。

※観音様の完成は、平成24年中を目処としておりますが、  
都合により前後することも御座います。

平成24年1月 住職 堤 俊翁



戦災に遭う前もこの地に観音堂が



台座工事中 2月29日現在

# 日常生活の中の仏教語

## 億劫（おっくう）

読み方は「おっくう」というのが正しいが、習慣で「おっくう」というのが一般的である。物事に手をつけるのに気が進まず、めんどろくさいことを意味する。

文字どおり、劫が億もある意味。劫というのは、仏教的数学観で、気の遠くなるようなきわめて長い時間のことをさす。例えば、四十里立方もある大岩石の上へ、百年に一度、天女が降りてきて衣の袖でその表面をなでる。そしてついにその岩がすりきれるまでの時間を一劫という。また、同様の大きさの鉄の城に、芥子粒を満たし、百年ごとにそれを一粒ずつ取り出して、全城空になるまでの時間にも譬えられている。

いずれにせよ、とてつもなく長い年月のことで、その劫が億倍もあつたら、どういう勘定になるか、およそ見当もつかない。永遠に近い時間といってもいいだろう。

そんな、数えつくせぬほどの長時間のことを考えると、あまりにも悠久で雄大な感じで、眼の前の些細なことにあくせく心を傾けるなど、ばからしくて仕事に手をつける気にもならない。そうしたもののぐさな心境に「億劫」の語源が見いだせる。

ちなみに、碁でいう「劫」も一石のやりとりに長時間争いを繰り返してきりのない状態をさす。語源は同じである。

### かぞくておいしい！ かくな流 精進料理

## かぶとさつまいもの 豆乳味噌煮

浄土宗～かるな～より

### <材料>

かぶ	3個
さつまいも 小	1本
だし汁	適量
調整豆乳	200cc
味噌	30g



### 【作り方】

1. かぶは皮をむいて 1cm 厚の輪切りにする。
2. さつまいもは半分くらい皮をむいて、同じく 1cm 厚の輪切りにする。鍋に 1 と豆乳を入れて、ひたひたになるくらいだし汁を加える。
3. 火にかけて煮立ったら味噌を溶かし、具材が柔らかくなって煮汁が半分になるまで煮つめる。  
(7-10 分程度) かぶの葉があつたら 5cm に切って 2 に加え、2 分煮て火を止める。